おくりの鬼

五

特
へ遠18
1718
5山

内閣文庫

門へ 13
帙 1718
号

今や世界の中にて人人初如来より歴者のつゝしみ
日天子表敬蒙り釈迦異見の
宣説より大音声をあげて東西へ法をあまねくして金の輝張
の澤沙流と唱へもてこれ雲間の楽屋にして西の方敵にて天王
之とかくれば梅檀の梓チョンとも毒の師蘆蘇々香
捲拳尤のゴ座ふを世界の中に日天子右の玉殿八月天子光明乾坤
を阿方〻暗を照らして門庭光を守護一切尤右
刑々にて所〻の小有明の尤吉天の沖の右吉横宝乃
大納言最衣雲の中納言紅雲のお納言夕雲の風早中宵雨の乗徴々
尤大矣徴雨の右大弁春爲の准彼の老親さて〻和之百九曜

七曜二十八宿玄牛織女箱約彗星霄の星曉の星風神雷神に
至るまて百官百司西教のごとく並び森のごとく星ゞり多しと
雖も稲妻の扇を揚て東西に疾ぬれバ万人各あえなく
忽ち天地に首を摺着て憧てゝ斗閑待て怯り日輪微妙の
位あるまて目鳴呼不便なる汝等青冥と仰時ハ微紅く
日月を日月と知ることくとも直に其身を省て此身も亦日月なると
しらざるや噫甚愚痴なるかなを如何せん抑勝尤天帝
釋の命を承り此世界の主と生人ち及万物を産じ九道を周旋
一日も由豫なく一刻偏時も休息せば汝等を照して陽すべし冬陽
然して我道に別て愛するものもなく別て悪むものもなく平等
圓満に押並べて其所々万象を照し育す更に依怙なく贔屓もなし

是則我の子を懐が如く貴人於ても皆可愛大慈大悲とハ是なり
あり汝等ハ吾に子ならずや邪道で吾を学び吾を仰く万人
万物を隔て己を推し万物に施ざるや吾に学ぶ吾を学ばざる人の
物を把さかり吾が為八分りともなく他人を悪み身を愛し輙ち
己勝手に飄風し衆生の削て親で見と号て心の鬼とハ知ずに
似ぬ子を鬼ふるなることを知らずして帰るべし世界に鬼ハ無物で
し学問自慢の押立をする族間あれども総て汝が別鬼と人を慢り
世を侮り偏言屹を張て我欲に泥着他人を省さる者どもハ皆此親
に似ぬ鬼子なり能此天道を学んで天道の通に私を用ず道を守りて
正直に世を渡れバ別て愛着もなく別て悪むべき物もなし我平等
に其心を天下に推人も敵ハなく四海の人みな悪者と見つべくなりそれ

己れを愛し人を亦己れを愛し彼を憎まれば憎まれて恨み怨み逆語く
世と共に生き世界の人皆己れが敵となる是その己れ心の鬼なり必人に
知られまじきと欲しと思ふ心も鬼なり悪人も可愛人も皆善
心の鬼なり心の鬼第一人第拙き法に身を責るとハ云つべき所
互に心の内に鬼あり角突合ふ所に学者ハ毫厘の差地獄
推ひ性善性悪の戦して書拙き地獄に隨て日本と敵と成仏家に
て衣の濯を為し明羅燈籠乃責苦に堕月三云念仏の国を作り
道場を修理乃仏祖乃仏像乃の赤鬼黒鬼乃の赤鬼白鬼
己れが乃を驕人乃を僵人を欺く絶に嫌乃塚廓を心肺の間に
築人を人を欺通がる魚と熟の如くお国作人
人乃を苦あを引き唯嘆とりつく直に生き本来と背き

けしからぬの用をなさば首も自ら落ふべし是非も又天下
のためにつかはるゝ者ゆゑ是を以て天地ハ人間の為のでうしとらふ
廣大なる天地とみれバ小人の眼も体ぞ惜ざるるかなしくが
退くにも身をしおもて是をみれバ世界に一ツも無益なし
指ハ禄とて斬ても惜ずしとハ是く寛およりの世界の死貨
を論ずれども天地ニ死貨一ツもなし汝等が五体をみよ脇なく
も灸を据る目鼻手なる斗りで常にハ有而可無而可のおくて耳も
穴斗り男子のごとく耳壁ハ米粒が百粒ずても何の役にも立ぬ者也
鼻も穴斗り二ツあれバたるを見りなまた中に早く鼻毛乃
吟味して色を勧る原とえ男乃気ハ二ツあれども女の気の一ツ
にも當ぞ新のでき問答ハ億兆人の一身にもあるなり況や

大塊の廣なる一間所も無んバあらざるぞ大塊の所々に陽れバ
別に蒸て天子升て雨と化湿して草木を生じ虫を生ずるその
生ずるや高き澤を成て岩生ずる山の陽や海のなきざるや気を通ず
お交る人分身に陽るや發とあり乳とあり薫とあり溺とあり唾とあり
汗となる見ゆざれバ別に食ひ目子諸耳に吟鼻に息意に鍋も
こちなくざるハ必陽るを見て出ル小男の外腎も化生て化陽る不
女の陰門ハ化生て化ざるなく出る雲へ陽る雲の物を
納て和合してものゝ流を生ずる地も又あげたるんぞ陽る物を
鞘さんや毛際ハ草乃如し陽れバおもし蔵を荊べし蚤虱を
見過賊乃てらし又付汝等ニ大指乃なれ子命じて新し
く是を刑罰まくしこれが外にハ斬てもてん不もなく

至て愛すべきもなく至て悪むべきもなし是此謂有善有悪
善人善を行ふといへども悪を行ふといへども挿ぐりんや彼を破り己を
取己を助んと計をめぐらすハこれ智恵を揺て名を揚んといふ悪智
恵乃鬼根性く這般の徒ハ果してこれ身を亡すにいたる是心乃
鬼の責く聊天下へ忠信なりといひ或ハ儒乃を破り或ハ仏
乃を破り或ハ挫民を施さんとせるハ宿忖耳壁が邪ニなれバとて
刑られて鰯ハ口を吸時邪ニなれバとて斬て捨んといふがごときハ
忠ふ似たる不忠く鰯も耳壁も一身の文なり諸乃諸藝も文
天下乃文なり文一つの比喩あり戯読子向へは忽怒ま己が証る
るをしらざるが如く善物善るハ己が親く己在が中くすこれおくり
若其己が畝と見るハわるざらんや善人善物互に

己が親く悟る時ハ何ぞ人の業を悟んや善人の業を悪んで己を施さんと
おもふ己が体を生ながら土中へうめて可らん己それバ物もいふお清寛
なし人を恨も己が悪く人ふ責らるゝも己が心の鬼の不為く能く
己を省て必人を悪くすべからず抑朕ハ汝等を懐ふすること身を懐ふが
ごとし故ふ天子乃冠の戴を知るも朝鮮も唐の夜の學を識
溜て好が尻を知てするもあしも陽物ならず這般子蒸楽活き
親の心を学ずして王壁親の鬼となりしぞ親の心子知らずとぞ汝
等がるなるべし詩ふ曰兄弟好合和楽して且楽とハ何の為ぞ
いふべきぞ這般子兄弟喧嘩をさせもあなおり縦令また論ず
とも是今より心を改めし是乃とんおもひ善乃善藝を論ず悪ま
兄弟の中らしの如く相親で交るべし小人よく一層眼坪

加く天乃法々を能く歎て後ハ我身を省る切小々の淨ひやな
乃俊乃子等ハ迷ひ中と其家の滅を零し跡くバ犬畜生悪ケ
惑ひ入者の心乃鬼怨ハ角を打切みてうがこれ親ハやこを知ん
世話を俊せ人と指し身の清うるハ東の加くあそひるのもてみ
るく今まその乃孝乃罪許しめくと第人等ハ一同ハひを合
日月と物ハ光り煌々として和睦ち一家乃昇も凡々さく
なとと乃主人へ立ゆる禽獸も喧々さく收び人乃も怡澤ビし
く賀と祝ひ天乃も寛ホと笑ひ善哉く〻賞讃め申包
晋ハ日人衆則天ハ勝天定亦能人ハ勝と人文これをとゝ
天乃親大常と流て乃女ハ美を云てめくる
天下悉和睦して乃おも色と平ハ蘇ゝるとゝちしおく

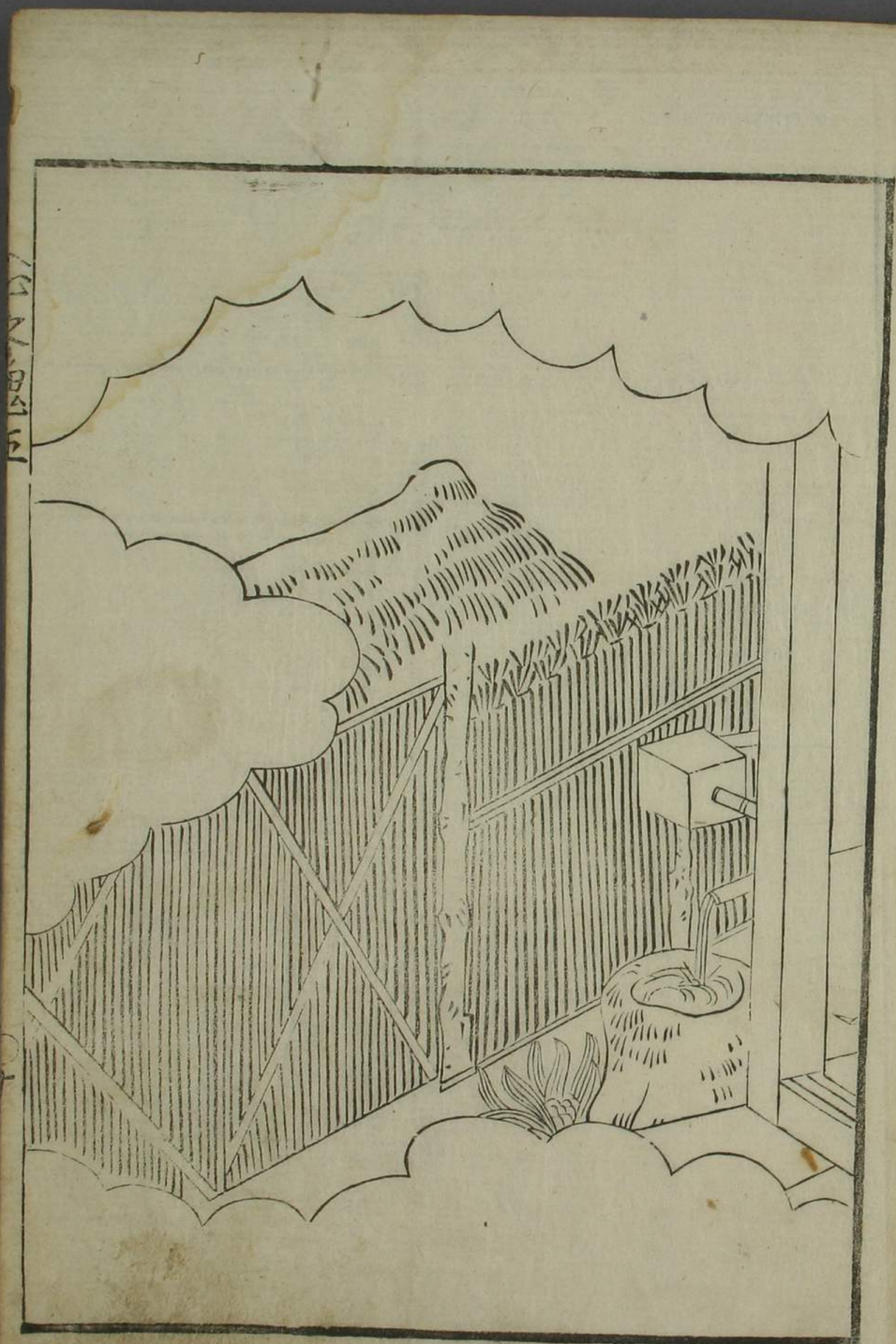
心を陰ゝうされども性物親ハ〻〻先の先今を影病わり有ハ天乃
と忘れぞ法ハ遂〻遂ハて同て曰苟我古縁乃人無ぞ老ハて孝
りくされども家ハ家して親付老母庠ハ代ゝも療治をるゝ
價ハ〻〻ぞ歳人彼ハ二十日孝とふ名をもゝる孝りハ感で
十今を与人とゝふ先天乃恵くと恢んで彼大恵のあハゝり
十あの今を世ひを呼る乃ハ初て第力延の為ハとゝさきを今
も奈ゝうり無も見を吟て驚て怨病を迫ハ歎死ハ死ゝう
今十あハ今の今を吾中の苟ハわゝぞや死をぞとを身も教され
無も死ゝくゝれぞ伝の乃理ゝ脇冥ゝう又を陳々ハ夏人あり
性要を飯ハ〻酒を汁ハ〻喧嘩を怨心ハて人の儷を侵ハ
て〻答を惑とゝひ世命を霧て八店屋拘とゝりひ代人を偽ハ

反吐のごとく父母を嫌ふる毒乃ごとくまた常に父母を恩ひして
回り海等二人毎晩〳〵其婦りつゝ吾と言ふ場よりうく
音を言ふ〳〵云ちのごとく恩ようらけつゝ辛楽と味噌二四を加て音を
責五吾海等よ言ひでらきろと教んぞるのあり言て出よ妻
婆乃苦患もんるるのあり憂如鬼婆と嘆さぐるも我れ二人
なりばな帰乃玉門へ押義で汝一われて言れる如時物変よ
猶て困苦と賞ひ海よ家業生涯ひして蒙〳〵海れり我
時の人咸回り天乃善人を悪んぐこれを野よ教し悪人を愛し
てたまと栄花よ海〳〵しむ乃和て東浦寨ぐ庵菰ぐ虚八海と
歎息せり又兄を長弟よ化て誼て白世の中八生涯の拙ム版で
こ西て天乃さん〳〵おまく牛りぐちかゝぐやよさりとハほんぐよ

ふくてしこの拙ム海を云〳〵ちもおまへハ白りをふくぐん
さてゝちんきとこ下りれ一節こ海と言ふ法徒ありても陽殺来〳〵ぐ
苦撥を種ても苦花も開和バ苦を守り法をる申変も
なし変人も仏も人も嗤しそ乃を紀やあ見を例乃
天命〳〵といぐ天命八悪乃ありを苦るを乃悪ハ費ありを仏
るをしても大るをるれと悪ふ結人もあるん丈悪人此悪我
なれハ皆先ようり興る天の賞罰も明〳〵ぐるふくるり
何ぞ我も天命〳〵とおしへさきぐ丈天命八やのあるをうり清生
て訪曲さるを働ぐや伝授見貢ありとぐうハやされまい
此沢彩道や日輪虹の彩皇を嘆ぐ歎じてのつく大ふる哉
問てや天地開時より已来を理を勲著小経をるをなし

此事を問給ふに答て八言葉に尽し難き事ハ文字を示す事能はざる事也故に孔子ハ怪力乱神を語らず又言ふ事を莫く黙せんと欲すといへり是理外なるが為也理外の理とて何とも彼とも云がたき処一つ也此理ハ天地の大なる物にして聖人と雖知りまさざる処ありと云ふも是也故不止後続へからずとぞいひ一字も説ずといひけるハ釈迦も不得已して達磨が経論に究の形骸て味噌て物を云ぬも此理を此理ハ云難き物也人にいへバとて云ふ事を理を拂へバ然れバ是を識者と神人といひ聖人といひ仏といひ天と云ふも名かはりて異る在異しやう事なりて天竺震旦ありて今我が国の処ハ聖仏もいはる天もいはざ是也知らんと思ふでもづかしと迷ども入何四ふ迷しなふ心此善人がごとき八天より善なる何のことハざるがごとし

然ども天ハ其理を知れり元子深く心を得れバ心親是を知るべく是も心と天と本一つなるが也人の能心と天と一つなる事を忘れバ善を行ひても不幸にあひても恨ず悪を知りて禍を知る人となりても義を守りなし是を真人といふ真人ハ眼を備ずして常に經を讀て經を仮子極て三常經といふ此經ハ真人の知つて常乃人の知らざる処なれども汝が為に示さん一語して已事を知らざるが也三常經の要をとりて是を解く人事とをりて聴べうるぞ心を得る聴下し三常とハ如何なる物ぞといはん其子三常といふ一子を常といひ二子ハ天常といひ三子ハ人常といふ是を一子常といふハ玉を氷て玉を掌ひ尾を掌き尾を掌くべく善を行へハ善なる天幸あり悪を行へバ悪なる此禍を知るに比べきり是乃常乃三事なりとて又二ツハ



[illegible]常とするの八玉をもつて尾を飾ひ尾をもつて玉を飾ふ
[illegible]を以て悪を災ふ今ひあるのみをもつて吾福を好るに
喩へいまり見得ざるを背くるのみ極さるを弱常といひ極乃
命を無常といふ人[illegible]ふ大常といふ人[illegible]も[illegible]ひ
悪をもつて[illegible]常と初めハ善[illegible]ハ常あり
初のごとくして環乃端なるがごとく[illegible]数の業を歴て
常[illegible]吐極まるの乃極りしあるを大常といふ人[illegible]乃
中ありて八[illegible]人雖ども遇ひ悪人福まあるを又常のあとして
更ま驚かん怪りぶ真人を常ま此[illegible]ふ[illegible]して安楽なり
汝等八[illegible]常と[illegible]常の中ま在れま就八天を天くしと怪ひ然
天々天ふも派せと恨ハ[illegible]百の常二百の[illegible]を[illegible]のごとく

第々年乃大常を覩ざるが如くして又[illegible]常[illegible]の中ま[illegible]人の悪人
あり父母ま悪にして汝等[illegible]を生りや吾汝等と[illegible]
るま派ぶ先ま今恩ありとまを[illegible]乃父の曰
汝我々を[illegible]るふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の曰吾
生れぬまくなり行ぶ[illegible]人乃[illegible]
とて父の曰汝又[illegible]とふ[illegible]
待ま大常を恨て怪ぶ　弟曰

父母生我　胡俾我瘉　不自我先　不自我後
好言自口　莠言自口　憂心愈々　是以有侮
吾謂之有　君謂之亡　謂有亡證　謂亡亡證
曰芸往看　往觀冥々　鳥知鳥聲　妹聞妹音

見をりつる大智ハ計らひ大言ハ言ぶ小人ハ見ぶ友を如くり
小智と発して人を偽り小論を述べ大道を害せんとまて見
ゑ大ハ知ぶる者く大知ハ閑々として知ぶること一方光子高
知ぶ知ぶる小上に知ぶ生して知ハ病くとろく汝もて穢て知
きぶる処ハ知てりつる大業を知るべしと命乃下に南部道の郡ハ
大常と恢ぶ名知の知ハ心中ハ明王を取出て日輪の如
ハ知を発ち

一今ハ世くの智恵ハ人乃鬼なりき

心乃月を輪吟しめて善哉くと宣と称しく曲神出し給敵
とぶんぶくと歩とと吟しく曲ぶとハ思ぶ和さんぶ

門の人を不正ハ吟ぶ乃おさんぶ知麻な光景でおざりゆとと
ハ多年ハ仕ハ文ぶ臓と目と宝熟着ハ我国し物ぶ出ぶ恵と
ハ吟ぶ美ハ美ハ美なりんぶ世の多
ハ厭鬼ハ見ハ己ぶ心の鬼なり月ハ光れ人乃心ハ見れ
ハ伝し神ハ美の中小美を見ぶ欲ハ大常と恢りりと恢ひの
恢りゆとか多

一吾かぶで心乃鬼ハ書ハ
ハれを拝れぶ
一言を人人を言ぶ中ハる時ハ
心乃鬼乃ゆく清知ぶ

心之鬼第五終

能通子之思
勢必獨善其身
為鬼而後使其
鬼也之時安
永嘉後靜濱

安永七戊戌年正月吉日

京三条通柳町東ヘル
武村嘉兵衛

大坂心斎橋借る町
柏原屋佐兵衛

江戸下谷竹町
花屋久次郎

江戸京橋南紺屋町ノ
柏原屋作兵衛

江戸石町十軒店
伏見屋善六

三都書林